

[ヒガンバナの楽しみ方（栽培）と名所]

2012年8月 片山繁朗

先に述べた様にヒガンバナは大変丈夫で作りやすいので、自分の好みや自宅の環境に合わせて色々な作り方があります。土質は選びませんが、極端な乾燥地以外でしたら日当たりの良い庭でも、家の北側でも立派に開花します。

- 庭植 最も簡単で手間がかかりません。芝生の中に群生させるのいいですが庭石の根じめに、玄関先に、緑の少ない冬のグリーンにと工夫次第で様々な使い道が有ります。
- ベランダ栽培 鉢植えやコンテナでも立派に開花しますが他の植物との寄せ植えも楽しく、マンションでも楽しむ事が出来ます。
- 余談 最近では人寄せの為にヒガンバナを沢山植えている所がありますが、見に行ってみると、輸入業者が中国より入れた球根をそのまま植え込んでいる所があります。全体としては赤いヒガンバナの様に見えますが、開花期が一ヶ月も早かったり、小型の花だったり、ピンクや白が混じったりで、ヒガンバナ混合と云った感じの所が多々見られます。山梨県、茨城県、神奈川県の藤沢市等で上記の様な花が見られます。それはそれで楽しいのですが、群生する真っ赤なヒガンバナを想像した者には一寸がっかりです。

[ヒガンバナの名所（東京周辺）]

- きんちゃく田 埼玉県日高市。蛇行する高麗川に沿って 100 万本が開花した様は壮観です。
 - 日向薬師周辺 神奈川県伊勢原市。黄金いろの稲穂との対比が見事。開花時期になると、小田急伊勢原駅に案内所が出来る。
- その他皇居桜田濠、清澄庭園、小石川後樂園、六義園、横浜三溪園等有る。